

ニッケグループ  
環境データ集  
“声”も明日につなげる

2016



**NIKKE**  
Group

# ニッケグループの概要

## 持続可能な成長に向けて “人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ” として情熱と誇りをもってチャレンジします



マスコットシープ「う〜るん」  
「ウール」の持つ「やさしく、あったかい」  
を表すシンボルとして活躍しています。

ニッケは1896年の創業以来、ウールの総合メーカーとして高い評価を得てきました。  
現在では繊維事業にとどまらない多角的な事業を展開し、ニッケグループを形成しています。  
120年にわたって受け継がれてきた創業時のチャレンジ精神で、持続可能な成長を目指しています。

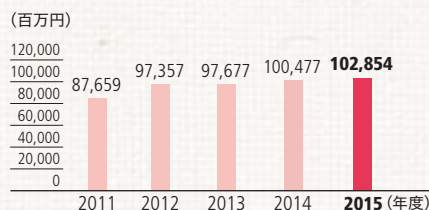
### ニッケグループの事業

<p>(株)ナカヒロ、アカツキ商事(株)、佐藤産業(株)、(株)ニッケファブリック、大成毛織(株)、ニッケテキスタイル(株)、(株)ニッケ起ダイニング、尾州ウール(株)、金屋ニット(株)、(株)キューテック、艶金化学繊維(株)、青島日毛織物有限公司、江陰日毛紡績有限公司、杉本織物(株)</p>	<p>ニッケ・タウンパートナーズ(株)、ニッケ不動産(株)、(株)ニッケレジャーサービス、(株)ニッケインドアテニス、(株)ニッケ・ケアサービス、日本パムコ(株)、(株)ジーシーシー、ニッケアウデオSAD(株)</p>	
<h4>衣料繊維事業</h4> <p>ウール(天然繊維)を主素材とした衣料用の素材・商品の開発・製造・卸売</p>		<h4>人とみらい開発事業</h4> <p>「街づくり」を主眼とした地域共生型のサービス提供および不動産開発</p>
<h4>産業機材事業</h4> <p>ウールから化繊、糸から紐・フェルト・不織布の開発・製造・卸売/産業用機器の設計・製造・販売/環境・エネルギーシステムの設計・施工・メンテナンス</p>		<h4>生活流通事業</h4> <p>商社機能を活かした、グループ内外に対する販売・物流サービスの提供</p>
<p>(株)ニッケ機械製作所、アンピック(株)、日本フェルト工業(株)、江陰安碧克特種紡織品有限公司、安碧克(香港)有限公司、安碧克(上海)貿易有限公司、(株)ゴーセン、ホクレン(株)、上海高織制紐有限公司、ゴーセン・タイランド</p>	<p>ニッケ商事(株)、双洋貿易(株)、(株)ニッケ物流、(株)友栄、(株)ツキネコ、(株)ニットファミリー、(株)ナイスデイ など</p>	

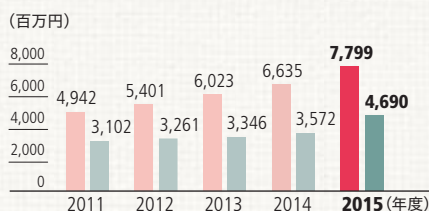
### 会社概要

通称社名 ニッケ  
社名 日本毛織株式会社  
所在地 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号  
設立 1896年(明治29年)12月3日  
代表者 取締役社長 富田一弥  
資本金 6,465百万円  
売上高 連結 102,854百万円  
従業員 連結 4,755名  
※2015年11月現在

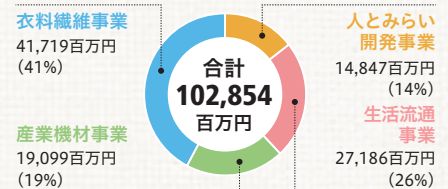
### 連結売上高



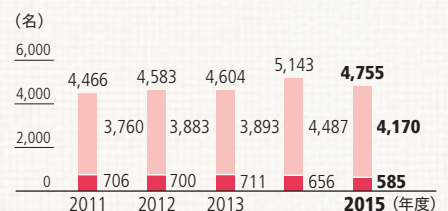
### 連結利益



### 事業別売上構成比(2015年度)



### 従業員数



## 環境データ集 2016 Contents

トップメッセージ……………	03	国内製造部門での環境保全活動……………	10
マネジメント……………	04	ショッピングセンター部門での環境保全活動…	21
特集① 排水リサイクル設備の導入……………	05	社会貢献活動……………	22
特集② コージェネ設備の導入……………	06	ニッケグループ各社の取り組み……………	24
環境経営の取り組み……………	07	環境報告ガイドライン対照表……………	29

## 編集方針

本データ集は、ニッケグループの環境活動について、2015年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。環境パフォーマンスデータは、国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門、オフィス部門を報告対象範囲としています。報告書またはデータ集の発行は本年度で12回目となります。また、冊子を廃止して当社のウェブサイトのみの掲載としています。

### 報告対象組織

- マネジメント・環境経営・環境保全活動・社会貢献活動  
ニッケグループとしての取り組みと各社の活動を報告します。
- 環境パフォーマンスデータ

#### 日本毛織株式会社

製造事業所(3カ所): 印南工場、一宮事業所、岐阜工場  
 オフィス(8カ所): 本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所  
 ショッピングセンター(2カ所): ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウン※1

※1 ショッピングセンター運営事業は、2015年12月1日に新会社ニッケ・タウンパートナーズ(株)に引き継いでいますが、2015年度末時点の組織で報告しています。

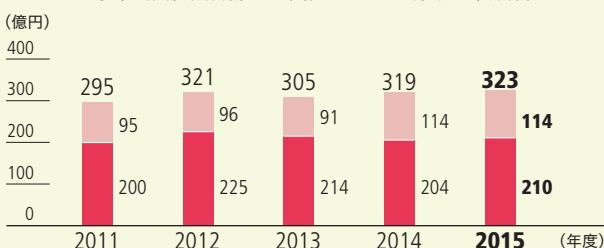
#### 国内グループ会社(6社)

尾州ウール株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、アンビック株式会社、株式会社ゴーセン、株式会社ツキネコ

連結対象組織における報告対象組織の補捉率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、補捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

### パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標

■ ニッケ3事業所出荷額合計 ■ 国内グループ会社売上高合計※2



※2 グループ会社売上高合計: 2011~2013年度は5社、2014年度以降は(株)ツキネコを加えた6社の合計値。

### 報告対象期間

2015年度(2014年12月1日~2015年11月30日)

### 期間中に発生した重要な変化

国内生産拠点のフル活用と高機能素材開発を促進する体制強化のため、一宮第1事業所、第2事業所の紡績生産機能と原糸開発機能を岐阜工場に、整理・反染・検査機能を印南工場に移管しました。また、日本パムコ(株)、杉本織物(株)の全株式を取得し、完全子会社化しました。

### 発行日、前回発行日、次回発行日

発行日: 2016年2月25日  
 前回発行日: 2015年2月25日  
 次回発行予定: 2017年2月

### 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)

### 作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室  
 兵庫県加古川市米田町船頭440  
 Tel. 079-431-2106 Fax. 079-431-2070

### 主な企業情報

企業情報: 会社案内、有価証券報告書、ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境データ集  
 主な企業情報に関するお問い合わせ先:  
 ニッケ 経営戦略センター 総務法務広報室  
 Tel. 06-6205-6600 Fax. 06-6205-6684  
 E-mail: webmaster@nikke.co.jp

企業情報に関するご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で関係部署から返答いたします(返答は後日になる場合もあります)。

#### 【ご注意】

2014年度以前のデータも見直し修正しましたので、昨年報告のデータと異なる数値があります。新しい情報は随時更新します。また、四捨五入しているため%数値が合わない場合があります。

#### 【免責事項】

本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する見通しも記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

## トップメッセージ



未来につながる環境保全に、  
社員一人ひとりが  
努力してまいります

ニッケグループ代表  
取締役社長

高田 一弥

ニッケは1896年の創業以来、環境にやさしい天然素材であるウールを社会に提供してきました。そして、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”であることを経営理念に掲げて、人間家族や地域社会への貢献にも力を注いでいます。

「21世紀は環境の世紀」と言われ、持続可能な発展を考えると、地球温暖化の防止・循環型社会の構築・生物多様性の保全など環境保全は重要な活動となっています。かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任であると考えています。

そのため、地球環境保全を企業経営における最優先課題と位置づけ、「ニッケグループ地球環境委員会」を組織して、省エネルギー・CO<sub>2</sub>排出量の削減・廃棄物最終処分量の削減などの数値目標を掲げてグループ全体で地球環境の保全に取り組んでいます。

本データ集は2015年度に推進したニッケグループの環境への取り組みについてまとめたものです。2015年度は、印南工場で省エネルギー推進施策としてニッケグループとして初めてガスを燃料とした発電設備「ガスコージェネレーションシステム」を導入し、アンビック(株)は工場排水量の低減と排熱回収を目的として「排水リサイクル設備」を新たに導入しました。

2016年度は、来期(2017年11月期)から始まる「リニューアル・ニッケ130(RN130ビジョン)」(中長期経営計画)の助走期間として、成長戦略の加速、若い力や新しい発想・知見で実行する体制を構築し、未来につながる環境保全に、社員一人ひとりが努力してまいります。

本データ集をご覧いただき、ニッケの取り組みを理解していただくとともに皆様からご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2016年2月

### 経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、  
わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- 未開の分野に目を向け、「高機能商品」「地域NO.1サービス」の開発と提供へ挑戦し、みらい創造企業を目指します。

### 経営方針

- 「全員がチャレンジ精神を持ち」「人が育つ」、生命力あふれた会社を目指します。
- お客様の声と研究開発から、独自性のある商品・サービスで市場を創造します。
- 常に未来を見つめ、グローバルな視点に立ち、世界に広がるお客様と社会の発展に貢献します。
- 多くの市場で勝ち抜くために、広く人材を求め、多様な「知」を結集して、事業を革新・発展させます。
- お客様や株主様、社員、取引先、地域社会をはじめとした様々なステークホルダーとの永続的な信頼関係を築くことにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。

# マネジメント

## コーポレート・ガバナンス

ニッケは、経営の効率化、透明性を向上させ、ステークホルダーの期待に応えながら企業価値の増大を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

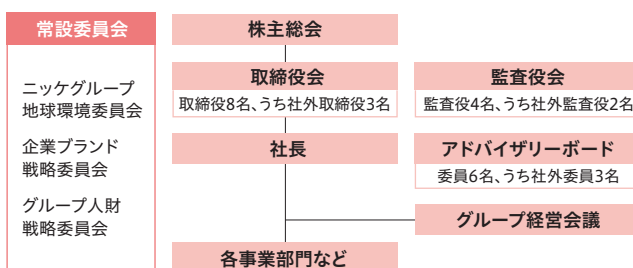
### コーポレート・ガバナンス体制

ニッケは、取締役会および監査役会で業務執行を監督・監査する「監査役会設置会社」として、「経営監視の仕組み」と「最適な経営者を選定する仕組み」の構築に努めています。2004年にはアドバイザリーボード(社外有識者の会議体)を設置し、経営者の指名・報酬に関わる業務の確立と、ボードメンバーによる経営の監視およびアドバイスを取り入れる仕組みを導入しました。

また2006年には執行役員制度を導入し、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の分担を明確にし、業務執行機能の強化を図りました。そして取締役会をスリム化し、社外取締役を加えて透明性のある経営を推進しています。

さらに、業務執行機能の強化を図るために、執行役員・常勤監査役・各事業部門長およびグループ本社部門長などから構成されたグループ経営会議を開催しています。

### コーポレート・ガバナンス体制



## コンプライアンス・リスク管理

「ニッケグループリスク管理委員会」を中心に、ニッケグループの倫理・法令の徹底・遵守をはじめとして企業を取り巻くあらゆるリスクに対応しています。

### コンプライアンス・リスク管理体制

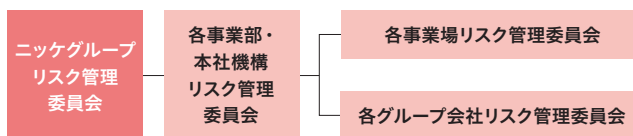
ニッケグループでは、2004年に「ニッケグループ企業倫理委員会」を設置しました。「企業倫理規範」と「企業行動基準」を制定するとともに、これらを記載した「企業倫理ハンドブック」を全社員に配布して徹底を図っています。

2008年12月には、「ニッケグループ企業倫理委員会」を「ニッケグループリスク管理委員会」に改組し、リスク管理上必要な重点テーマを設定して活動しています。

2011年度は、特に、東日本大震災を受けて、BCP(事業継

続計画)と大規模災害時の初動対応の見直しを実施しました。2015年度においても、報告すべき大きな法令違反や企業倫理問題は発生していません。

### ニッケグループリスク管理委員会体制



### 内部通報者の保護

ニッケグループでは、「企業倫理規範」に関わる事柄で、職場内だけでは解決が難しい場合や、上司に相談することが必ずしも適切でない事項について、社員が相談できる窓口を「企業倫理ハンドブック」・社内イントラネットなどで

周知しています。

窓口は2つのルートを設け、相談者のプライバシーを厳重に守る体制としています。2015年度の利用は職場環境問題を中心として3件ありましたが、ほぼ円満に解決しています。

特集①  
アンビック

# 排水リサイクル設備の導入

## 水使用量の削減と廃熱回収を両立

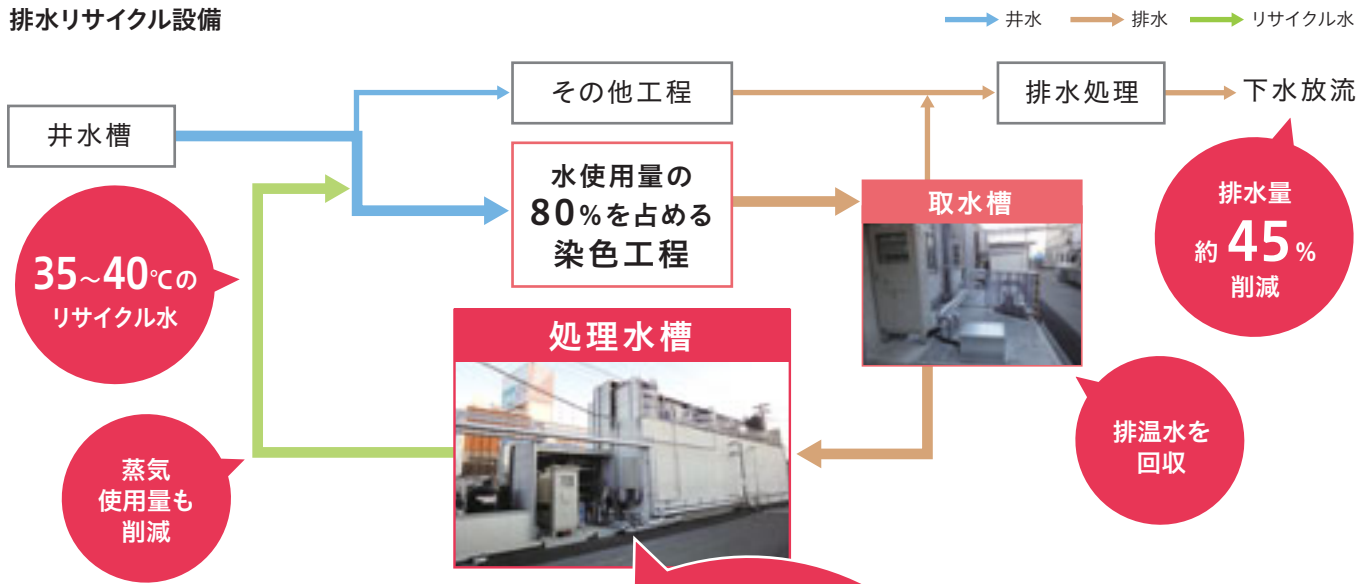
アンビック(株)は、工場排水量の低減と廃熱回収を目的として排水リサイクル設備を導入しました。アンビック(株)での主な排水は染色工程からのものであり、含まれる助剤の種類が都度変動します。そのため、排水をリサイクルできるようになるまで長期間の検証の末、ようやく実現に漕ぎ着けました。構想から着工まで約3年、7カ月の工事期間を経て、2015年11月より稼働しています。

リサイクル処理は膜処理システムを使用しており、UF膜

(限外ろ過膜)、RO膜(逆浸透膜)でろ過することで、染色排水から井水より不純物が少ない水を作り出します。また排温水を再利用することで熱も回収するため、リサイクル水は35~40°Cの温水となり、工程内で再利用する際の蒸気使用量削減に寄与しています。

このシステムの導入で、排水量の約45%に当たる年間3万7,000m<sup>3</sup>の削減を見込んでいます。

### 排水リサイクル設備



### UF膜とRO膜でろ過



UF膜とRO膜の2段階の膜処理システムで、井水より不純物を低減(左から排水の原水、UF膜処理後、RO膜処理後の水)



排水リサイクル設備(左:UF膜、右:RO膜)

特集②  
印南工場

# コージェネ設備の導入

## ニッケグループ初の設備で省エネに貢献

印南工場では省エネルギー推進の施策として、ガスを燃料とした発電設備である「ガスコージェネレーションシステム」をニッケグループとして初めて導入しました。

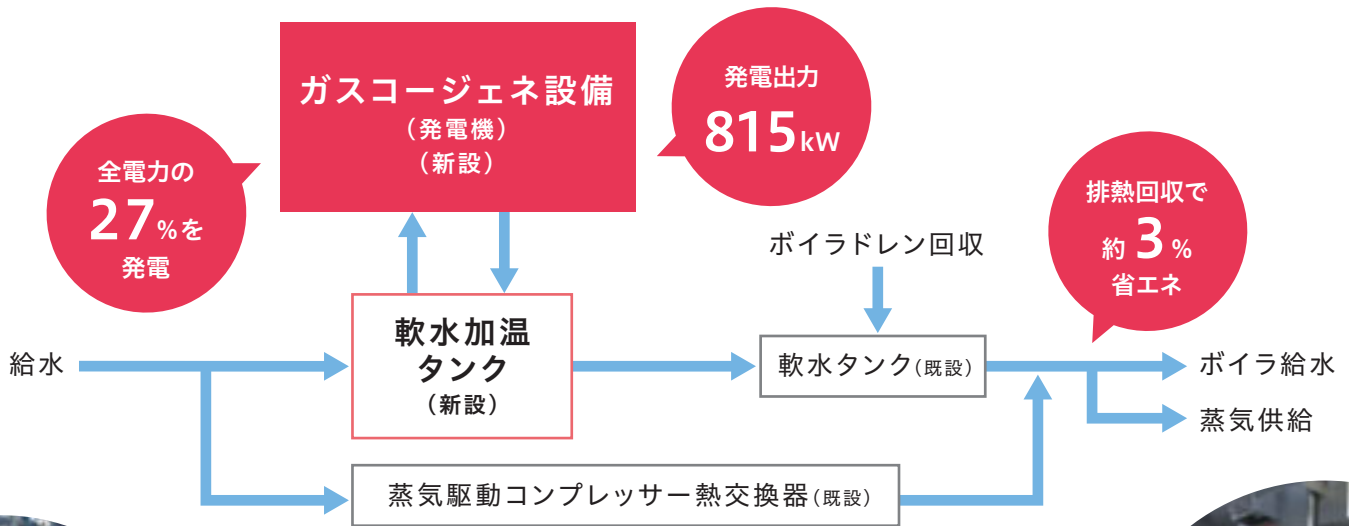
これまで印南工場では、全電力を関西電力から購入していましたが、その27%をガス燃料で発電します。また、発電機から発生する排熱を蒸気・温水として有効に利用

することにより、工場全体で約3%の省エネが期待できます。

現在、電気料金が高止まりしており、燃料をガスに切り替えることによりエネルギー費の削減にもつながります。

コージェネ設備は施設課ボイラ室の北側に設置しており、2015年12月から本格稼働していますので、ご来場の際は一度見学いただけたら幸いです。

### ガスコージェネレーションシステム



冷却水  
循環ポンプ

コージェネ設備  
(発電機本体)



排ガスボイラ

発電機内部



コージェネ設備  
(冷却塔)

# 環境経営の取り組み

## 環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

### ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」  
企業グループとして、  
わたしたちは情熱と誇りをもって  
チャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

### 行動方針

環境保全活動の推進	CO <sub>2</sub> 排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。
環境マネジメントシステムの確立	ISO14001の認証を製造事業所3カ所およびグループ会社7社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。
環境規制の遵守	環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

### 重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO<sub>2</sub>排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

## 環境マネジメント

「ニッケグループ地球環境委員会」のもと、「PDCAサイクル」を重視した環境マネジメントシステムを継続的に運用していくことによって、環境保全活動を推進しています。

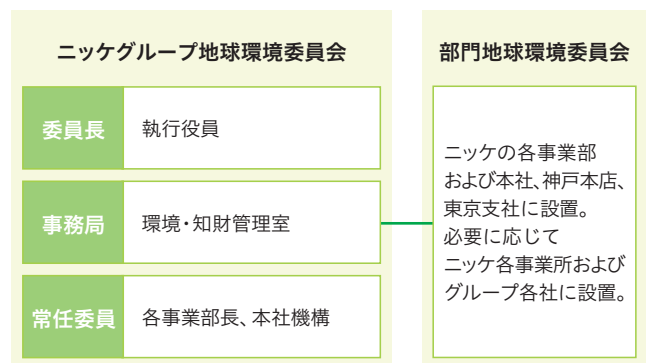
### 環境マネジメントシステム

ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに

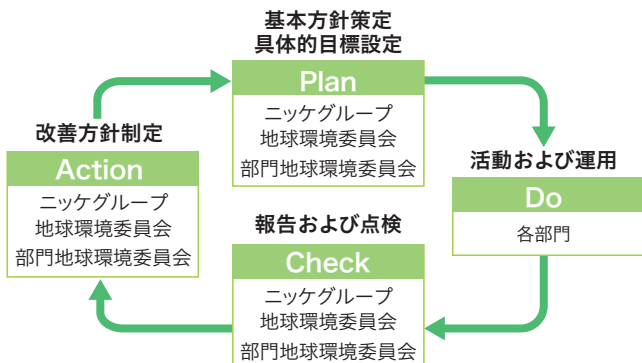
設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

### 環境マネジメント体制



### 環境保全活動推進フロー





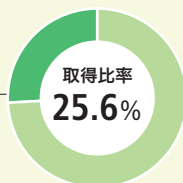
## 環境経営の取り組み

### ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所3カ所およびグループ会社7社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001 認証を取得しています。

2015年度にISO14001の認証を取得したグループ会社はありません。

ニッケグループ全社員に占める  
ISO14001認証取得事業所  
従業員の割合



認証取得従業員数:1,406名\*

グループ従業員数:5,496名\*

\*非連結グループ会社を含む。

### 環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。

環境対策投資は公害防止設備や省エネ・廃棄物減量設備への投資を集計したもので、下記データの通り年度により変動はしますが、中長期計画に掲げて継続的に取り組んでいます。

公害防止コストは年間管理計画の中で規定された大気・排水分析や機能維持のための保全費用を集計したものです。

#### 環境会計データ

(千円)

	2011	2012	2013	2014	2015
環境対策投資額	135,959	123,496	3,471,461*	2,096,190*	217,591
公害防止コスト	176,130	187,839	183,317	176,253	194,783
汚染負荷量賦課金	3,049	2,978	2,909	2,832	2,457

\* 2013年、2014年、ニッケまちなか発電所への投資額を含む。

### 環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施し、廃棄物の区分リサイクル方法を説明して分別回収の重要性に対する認識を深めています。

2015年度には、大阪市環境局から「ごみ減量」に貢献した企業としてニッケ大阪ビルと(株)ゴーセンが表彰されました。

今後も分別回収の意義・効果を理解し、地球環境保護・改善につながるよう努めていきます。



「ごみ減量」への  
貢献で表彰

### ISO14001認証取得事業所一覧(2015年11月末時点)

事業所	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事株式会社	2001年9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック株式会社	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業株式会社	2001年11月	JEO129E
株式会社ナカヒロ	2002年6月	E465
上海高織制紐有限公司	2004年3月	01 104 031654
株式会社ニッケ機械製作所	2004年11月	3030786
株式会社ゴーセン	2005年4月	JQA-EM4701
一宮事業所	2007年12月	JMAQA-E724

### 環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2015年度はニッケ3事業所合計で不適合0件、観察事項8件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。またニッケの3事業所で合計59名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2015年度は不適合0件、観察事項15件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合もあります。

### 環境リスク管理

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



岐阜工場 PCB流出時の対応訓練



印南工場 消火放水訓練

## 環境経営の取り組み

### 環境影響の監視・測定

ニッケグループでは、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、製造事業所3カ所と(株)ゴーセン天神工場では、所在する地域の排水水質規制を上まわる自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、新設備導入時など騒音が心配される場合は防音壁の設置や消音材の張り付けを実施し、周辺の生活環境の保全に努めています。

### 法令遵守状況

2015年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に重大な違反・罰則・訴訟はありません。

### 環境コミュニケーション

兵庫県加古川市のグループ企業と地域の皆様との相互理解を深めるために、年2回、周辺の町内会の代表と地域連絡会を開催しています。連絡会では地域の情報交換や各グループ企業の状況報告をするとともに、地域に根ざした企業グループとして地域をサポートできるような体制の構築に取り組んでいます。

また、印南工場と兵庫県、加古川市の間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。

### 生物多様性の保全

大阪府高槻市鶴殿は、淀川水系で最大のヨシ原です。鶴殿のヨシは国内で唯一、雅楽の主旋律を奏でるひちりまに欠かせないろげつ蘆舌というリードに用いられ、日本古来の伝統芸能を支えてきました。それだけでなく、ヨシそのものが河川の水質浄化に役立っています。ニッケグループでは、地球環境保全に寄与したいという考えから、鶴殿のヨシ原の保全活動に協力しています。



鶴殿のヨシ原

### 環境に配慮した不動産開発

「ニッケテニスドーム岐阜」と「ニッケテニスドーム一宮」のコート照明をLED機器に更新しました。この結果エネルギー使用効率が上昇し、コート照明に係る1年間の使用電力量は186,480kWhから64,895kWhに、CO<sub>2</sub>排出量も94.9tから33.0tへと約1/3に大きく削減しています。

更新にあたっては、「エネルギー使用合理化等事業者支援補助金」(経済産業省資源エネルギー庁所管)を申請し、「ニッケテニスドーム岐阜」については補助金の交付を受けることができました。



ニッケテニスドーム一宮

### 環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を販売開始
1998	●ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001を認証取得 ●アンビック(株)でISO14001を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	●(株)ナカヒロでISO14001を認証取得 ●印南工場にてNEDOとの共同研究で太陽光発電システムの実証実験を実施
2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ●上海高織制紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2007	●一宮事業所でISO14001を認証取得
2012	●太陽光発電システムの1号拠点を稼働(ニッケパークタウン) ●「環境データ集」として、冊子を廃止しウェブサイトのみに変更
2013	●鶴殿ヨシ原の保全活動のサポートを開始 ●ニッケまちなか発電所明石土山にて売電事業を開始
2014	●広域認定制度の認定取得 ●着用済みユニフォームのリサイクルシステム「エコシップ」の設立
2015	●(株)アンビックで排水リサイクル設備の導入 ●印南工場でガスコージェネレーションシステムの導入

# 国内製造部門での環境保全活動

## 環境保全中期計画

ニッケグループ国内製造部門は、2012年12月に策定した「環境保全計画(2015年度)」の達成に向けて全社が一丸となって各種施策に取り組みました。

### 2015年度の目標と実績

目的	内容	2015年度の目標	2015年度の実績	自己評価
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	97.0%以下	80.2%	
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	97.0%以下	80.1%	
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	97.0%以下	124.2%	×
PRTR法対象物質 使用量の削減 <small>※ 右記の年度は、行政への報告・ 集計期間(4月～翌年3月)に対応</small>	工場出荷額当たり原単位 2011年度比	97.0%以下	110.7%	×
グリーン購入の促進 <small>※ 製造事業所3カ所および本社・ 東京支社での取り組み</small>	グリーン購入該当品 購入比率	95.0%以上	89.9%	×

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた 目標に向けた改善ができなかった

### 報告対象事業所

国内製造部門：■ 製造事業所(3カ所) ● オフィス(8カ所) ▲ 国内グループ会社(6社)

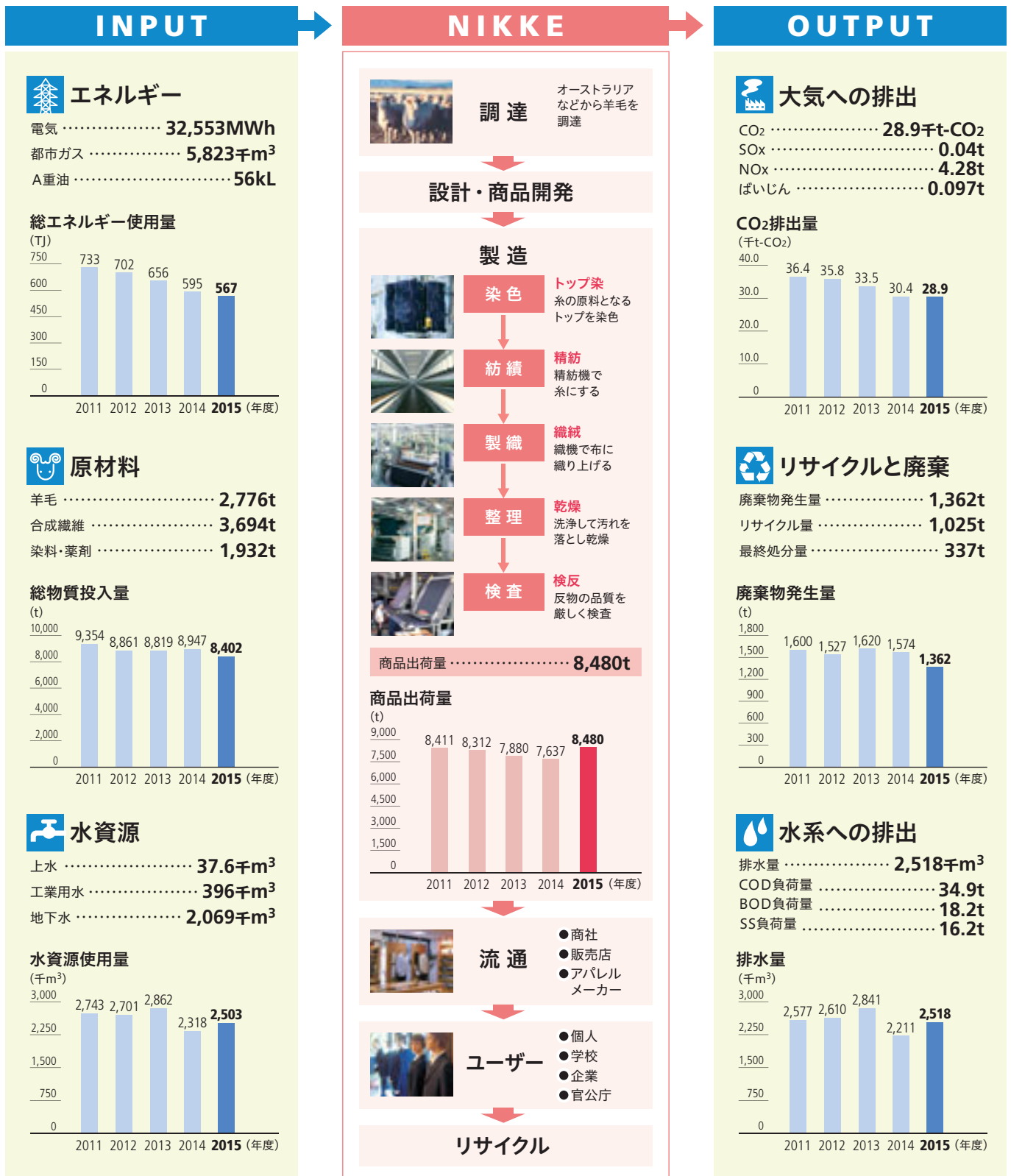
ショッピングセンター部門：◆ ショッピングセンター(2カ所)



# 国内製造部門での環境保全活動

## 環境負荷の全体像

原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO<sub>2</sub>や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。



## 国内製造部門での環境保全活動

### 地球温暖化防止の取り組み

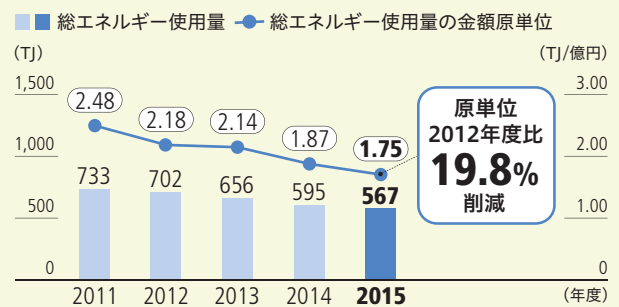
省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位とCO<sub>2</sub>排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

#### 省エネルギー活動の推進

総エネルギー使用量原単位は「2012年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は「80.2%」と目標を達成できました。この主な要因は、照明機器のLED化、設備の老朽化対策などエネルギー使用削減に取り組んだことです。省エネ会議や省エネパトロールなど、社員の省エネ意識を高めるための啓蒙活動も継続しています。

夏期の電力ひっ迫期間には、各事業所に導入したデマンド制御設備を活用し、各事業所で想定している最大使用電力を超えそうなときには、空調設備を停止するなど、地道な取り組みを重ねました。これによって、社員の省エネに対する意識は格段に向上しました。

総エネルギー使用量と原単位



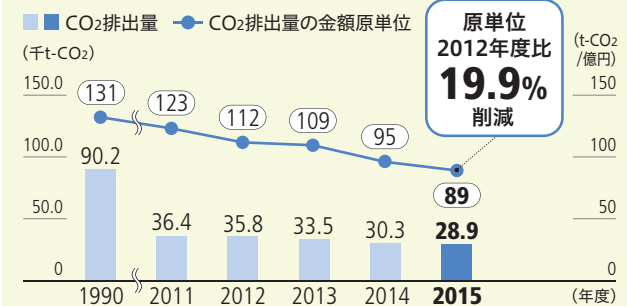
#### 温室効果ガス排出量の削減

CO<sub>2</sub>排出量原単位は「2012年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は「80.1%」と目標を達成できました。

この主な要因は、各製造事業所での省エネ対策により総エネルギー使用量原単位を削減できたためです。

CO<sub>2</sub>排出量は、京都議定書が定める基準年1990年と比べて国内製造部門では67.9%減、ショッピングセンター部門を加えると57.2%減となりました。

CO<sub>2</sub>排出量と原単位



注) CO<sub>2</sub>排出係数は、2015年度の係数が未発表のため、2015年度実績の算出には2014年度の係数を使用しています。また、2014年度実績は、2014年度の係数が発表されたため修正し、昨年報告したデータと数値が異なります。

#### 輸送でのCO<sub>2</sub>排出量の削減

ニッケグループでは輸送効率を向上させる取り組みを推進しています。

出荷製品や原材料の輸送距離を短縮するとともに、効率よい輸送でトラック便数を減少させるなどの取り組みに努めています。

(株)ニッケ物流は、2012年12月にGマーク認定を受けま

した(Gマーク認定はトラック運送事業者の安全性を評価・認定する制度です)。

2013年8月からは、グリーン・エコプロジェクトに取り組んでいます。今後もエコドライブを推進し、CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みをさらに強化していきます。

## 国内製造部門での環境保全活動

### 省資源・リサイクルの取り組み

高リサイクル率を維持しつつ、廃棄物発生量を減らす取り組みをしています。

#### 総物質投入量の低減

製造部門の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

#### 物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産物を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

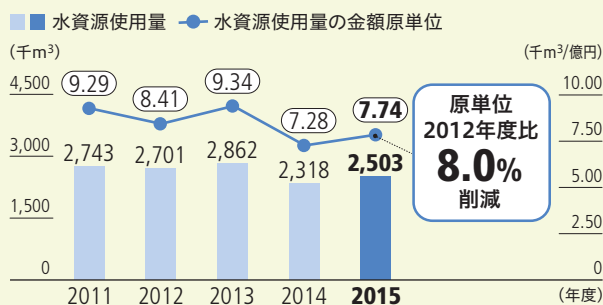
また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間約5.8トンで、これら容器包装材は(公財)日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

#### 水資源使用量の削減

使用する水資源には上水・工業用水・地下水があります。2015年度の水資源使用量は2012年度比で7.4%減少し、原単位は8.0%削減しました。

この主な要因は、老朽化した用水配管の補修を行ったことです。今後も、配管システムの点検・改修、節水対策を推進し、水資源使用量の削減に努めます。

#### 水資源使用量と原単位



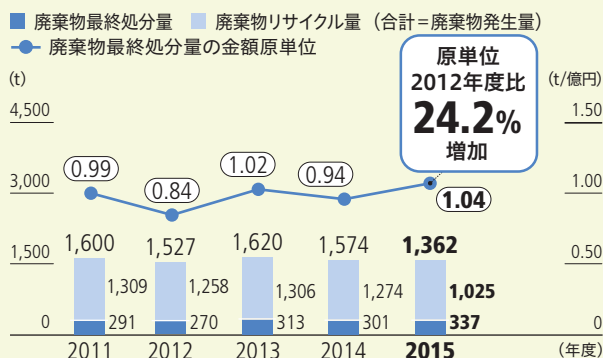
#### 廃棄物の削減

廃棄物最終処分量原単位は「2012年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は「124.2%」と大幅に増加しました。

これは、2014~2015年度にアンビック(株)にて、生産ラインの再編を行い、老朽化した生産設備を廃棄物として処分し、一宮事業所では国内生産拠点再編に伴う工事で廃棄物を処分したことが原因です。

2016度以降は、廃棄物処分量は減少する見込みです。

#### 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



## 国内製造部門での環境保全活動

### 化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤から対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了し、さらに少量使用している物質においても、試験を進めて切り替えていきます。

※PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

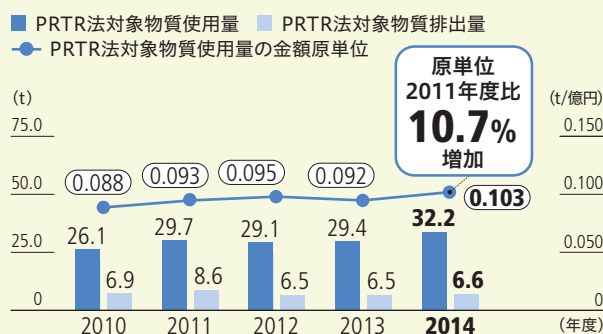
#### 化学物質の削減と管理

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えましたが、PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2011年度比97.0%以下」とした目標に対して、実績は「110.7%」と目標を達成できませんでした。

これはPRTR法対象物質を使用するものの生産割合が増加したことによります。

今後も、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えに向けた研究を進めていきます。

#### PRTR法対象物質の使用量・排出量と使用量原単位



注) PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業省に届け出ています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

#### PCB使用廃電気機器の適正管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「中間貯蔵・環境安全事業株式会社」にPCB使用廃電気機器を処理登録しており、現在、処理順番を待っている状況です。処理が実施されるまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適正に保管しています。

また、数mg/kg～数十mg/kgのPCBが混入した微量

PCB汚染廃電気機器の問題については、製造年などから混入の可能性のある機器を特定し、絶縁油のPCB分析により汚染の有無を確認する作業を行っています。汚染が確認された機器は計画的に更新し、微量PCB汚染廃電気機器として適正に保管・処分します。

#### ダイオキシン類

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

## 国内製造部門での環境保全活動

### 大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁などの公害対策については、特に周辺住民の方に迷惑をかけないように、確実に公害防止設備の定期保全を実施し、排ガスや排水水質の定期分析および管理を継続しています。

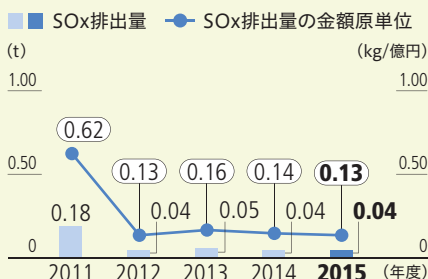
#### 大気汚染物質に削減

ニッケグループから排出されるSOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場、一宮事業所、岐阜工場、アンビック(株)、(株)ゴーセンは、天然ガスなどを燃料とする

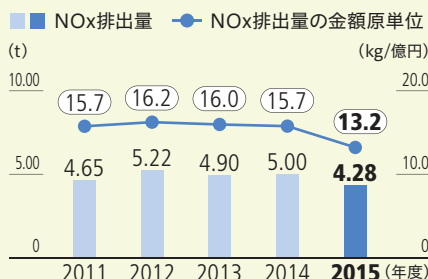
ボイラを使用しており、SOx排出量をゼロにしています。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

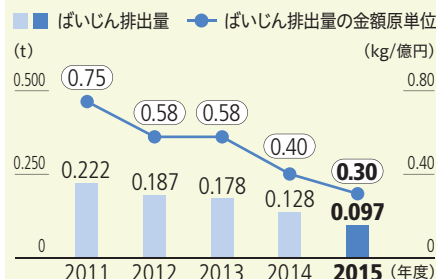
#### SOx排出量と原単位



#### NOx排出量と原単位



#### ばいじん排出量と原単位

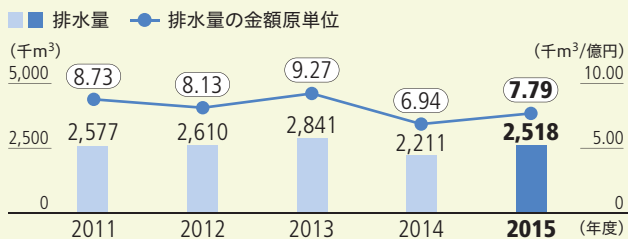


#### 排水の管理

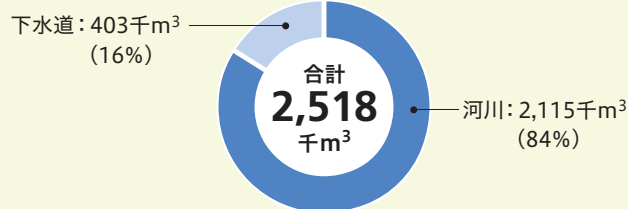
工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。

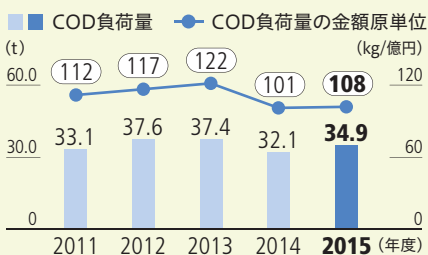
#### 排水量と原単位



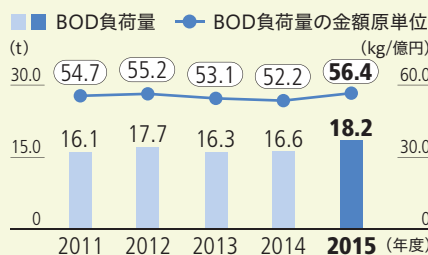
#### 排水の排出先別内訳(2015年度)



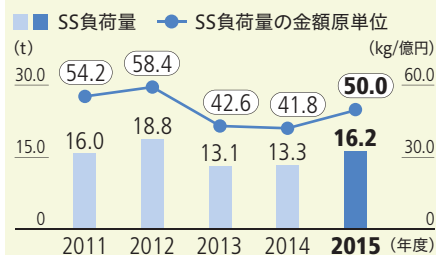
#### COD負荷量と原単位



#### BOD負荷量と原単位



#### SS負荷量と原単位





## 国内製造部門での環境保全活動

### 環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の使用、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

#### ニッケ



### 新・環境配慮型素材

# NIKKE PLABIO

#### 天然繊維ウールと、植物由来の特殊なポリエステルをブレンドしたハイブリッドエコ素材

ニッケは、大自然に育まれた天然繊維ウールと、環境に配慮した次世代ポリエステルのブレンドから生まれたハイブリッドエコ素材、「NIKKE PLABIO(ニッケ プラビオ)」を開発しました。ウールならではのソフトな風合いと、強度・耐久性を兼ね備えた新しい環境配慮型素材です。



#### 人と環境にやさしい 天然素材ウール

- 100%天然由来
- 省資源 - 毎年繰り返し育つ
- 「冬暖かく・夏涼しい」、衣服内の湿温度を調整する天然のエアコン機能
- 資材や堆肥として再利用可能
- 完全生分解繊維

#### 環境負荷の少ない 次世代ポリエステル

- 部分バイオマス由来
- 省資源 - 石化原料使用削減
- アンチモン・フリー
- 堆肥化副資材として再利用可能
- 焼却・埋め立て廃棄物の削減

## 国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

### ゴーセン

## 釣糸スプールのリユース

### 不要スプールを回収し、再利用

釣具事業を展開し、日本をはじめ世界各国に釣糸を供給・販売している(株)ゴーセンでは、釣糸を巻き取るプラスチック部品(スプール)の回収・再利用を進めています。

お客様がお店に持ち込まれた不要スプールを(株)ゴーセンが回収し、その中から再利用できるものを選別・洗浄。新たな釣糸を巻き付けた後、ラベルを張り替えた上でリユースシール<sup>※</sup>を貼付して再商品化しています。

2015年度は、約3,000個のスプールがリユース商品として生まれ変わりました。

<sup>※</sup> リユースシール：一般社団法人 日本釣用品工業会 (JAFTAMA) の認証を受けたシール。



回収されたスプール



再利用スプール

### アンビック

アンビック(株)では、原料から製造、使用、廃棄に至る商品のライフサイクル全体で、環境への負荷が少なくなるよう考慮しています。新商品の開発・設計や、原材料・工程など既存品を著しく改善する際の設計段階において、ISO14001に基づいて定めた製品アセスメント規定

と、製品アセスメントチェックリストに従って、新商品・改良品の環境影響を評価しています。

また、フェルト商品の開発・製造にあたっては、ニッケで副産物として発生する羊毛を利用しており、資源の有効利用に努めています。

## 工業用液体フィルター

### 低圧力損失で、大流量でのろ過が可能な袋状の液体フィルター

工場では、洗浄液、クーラント液など多くの液体が使用されています。それらの使用済み液体はフィルターでろ過することにより繰り返し使用することで、工業排水量の削減を実現しています。また、原水に含まれる不純物(ダスト)をフィルターでろ過し、工業用水として使用しています。

アンビック(株)では、工場で発生する工業排水中のダストをろ過するプレフィルターとして、低圧力損失で、高いろ過性能を有する袋状に縫製加工した液体フィルターを開発しました。粒子径に応じた5種類のろ過精度、さまざまな形状の製品ラインナップを取り揃えています。お客様のニーズに応じたフィルターを提供することによって、水資源使用量の削減や河川の環境保全に貢献しています。



## 国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

### 再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)(現日清紡ホールディングス(株))の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

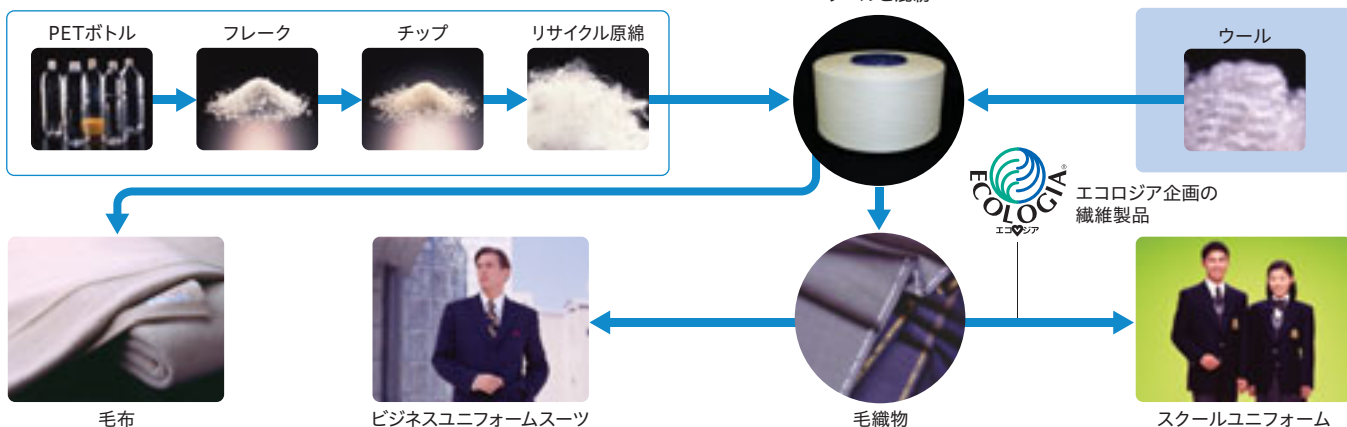
これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの商品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

### エコマーク取得商品

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(公財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用生地、毛布などがあります。

#### エコロジア企画の仕組み



### 「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

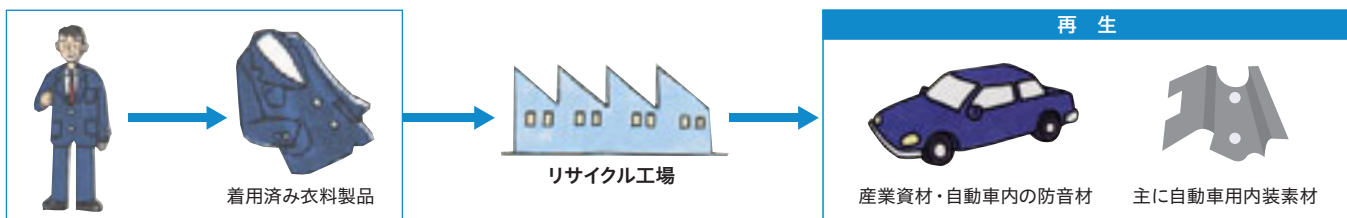
限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、商品回収・再生に向けた意識が高まっています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ダイドーリミテッド、大東紡織(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

「エコネットワーク」の回収商品は、ウール100%と、ウールと他繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収商品を産業資材などとして再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。

#### エコネットワークの仕組み



## 国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

### 広域認定制度の認定を受けて、着用済みユニフォームをリサイクルする「エコシップ」

2014年7月、日本毛織(株)・(株)ナカヒロ・アカツキ商事(株)・佐藤産業(株)のニッケグループ4社は、環境省の広域認定制度の認定を取得し、9月に「エコシップ(ecoship)」を設立しました。

認定を受けたecoship会員企業4社が製造し、産業廃棄物となった着用済みユニフォームの回収・リサイクルに努め、廃棄物の削減と資源の有効活用を推進していきます。

#### 広域認定制度 認定番号 第239号

##### 広域認定制度とは

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(略称 廃棄物処理法)の第15条4の3に基づく廃棄物の広域的処理に係る特例制度。

##### 特例制度とは

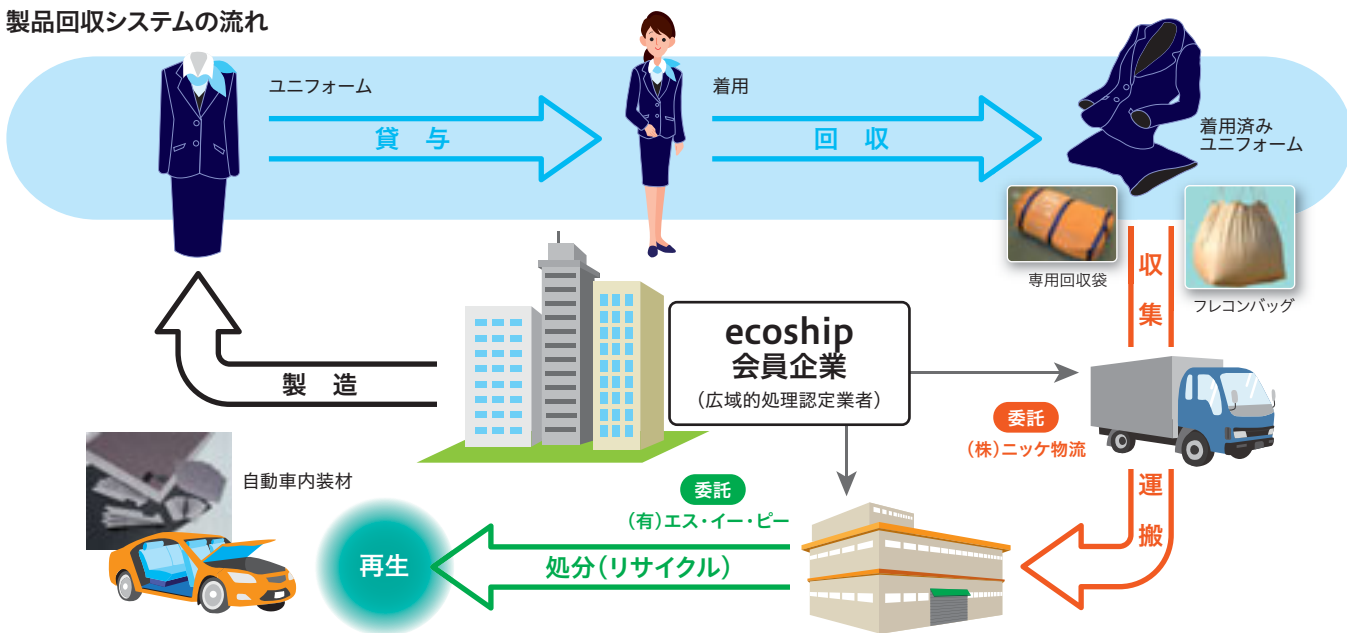
産業廃棄物を収集し、運搬し、処分するためには、地方公共団体ごとの廃棄物処理業の許可が必要である。

特例制度は、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保に資する広域的な処理を行う者として環境大臣の認定を受けると、認定を受けた範囲内で廃棄物処理業の許可が不要となる制度である。

##### 認定の範囲

- ・ecoshipの会員企業が製造した、ポリエステルやナイロンなどの合成繊維または合成樹脂が含まれるユニフォーム。
- ・ユーザー様が従業員へ貸与し、着用後に回収したもの。
- ・会員企業(広域的処理認定業者)4社……………日本毛織株式会社、株式会社ナカヒロ、アカツキ商事株式会社、佐藤産業株式会社
- ・委託を受けて収集・運搬を行うもの1社……………株式会社ニッケ物流(愛知県一宮市今伊勢町本神戸字河原1 ニッケ一宮事業所内)
- ・委託を受けて処分を行うもの1社……………有限会社エス・イー・ピー(施設の所在地:静岡県菊川市本所2281-3)

#### 製品回収システムの流れ



#### 契約 会員企業とユーザー様

- ・ecoship(広域認定制度)を利用する契約をする。
- ・収集方法を取り決めて回収袋を貸与する。
- ①トラック運転手が手作業で積む(20kg専用回収袋を貸与)
- ②ユーザー様所有のフォークリフトでトラックに積む(500kg回収袋:フレコンバッグを貸与)

#### 回収 ユーザー様

- ・着用済みユニフォームを回収し、貸与された回収袋に詰める。

#### 収集及び運搬の依頼 ユーザー様から会員企業へ

- ・回収量、収集時期(範囲を設定)を連絡する。

#### 収集及び運搬の要請 会員企業からニッケ物流へ

- ・ユーザー様名、収集場所、回収量を伝える。
- ・収集時期を連絡し、ニッケ物流の都合と照らして収集日を決める。
- ・ニッケ物流が費用の見積書を作成し、会員企業と合意する。

#### マニフェスト発行 会員企業からリサイクル情報センターへ

- ・会員企業がリサイクル情報センターへ、ユーザー様名、収集場所、回収量、回収日を連絡する。
- ・リサイクル情報センター(エコシップ事務局)は、マニフェストを作成しニッケ物流へ渡す。

#### 収集・運搬 ニッケ物流

- ・取り決めた収集日・時間にユーザー様へ収集に行く。
- ・トラックに、法令で定められた表示をする。(広域認定制度に基づく産業廃棄物収集運搬車両認定番号第239号株式会社ニッケ物流)
- ・トラックに、認定証の写しを備え付ける。
- ・トラックに、運搬先事業場である有限会社エス・イー・ピーの名称、所在地、連絡先を記載した書面を備え付ける。
- ・マニフェストを必ず携行する。

#### 処分 エス・イー・ピー

- ・ニッケ物流により運ばれた着用済みユニフォームを分別・手解体等し、反毛フェルト原料として自動車内装材素材メーカーに販売する。

## 国内製造部門での環境保全活動

### グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

#### グリーン購入の促進

ニッケ独自のグリーン購入基準の該当品購入比率は「95.0%以上」という目標に対して「89.9%」と目標未達でした。ペーパーレス化によって該当品比率の高い事務用紙の購入量が減少したこと、また、文具類では、レーザープリンタ用トナーの非該当品の割合が高いことが上げられます。

今後、比率を上げることは難しい状況ですが、購買品・調達先を見直すことで改善していきます。

グリーン購入該当品購入比率

	2011	2012	2013	2014	2015
紙類	95.6	95.7	90.8	92.5	<b>94.5</b>
文具類	75.2	73.4	70.2	71.5	<b>75.5</b>
機器類	99.8	96.4	99.6	70.8	<b>59.1</b>
OA機器	100.0	99.9	99.9	99.9	<b>100.0</b>
照明 照明器具	99.2	100.0	96.5	99.9	<b>99.6</b>
照明 蛍光灯	94.5	94.9	86.4	98.3	<b>100.0</b>
合計	94.2	95.0	93.5	94.6	<b>89.9</b>

### オフィスでの取り組み

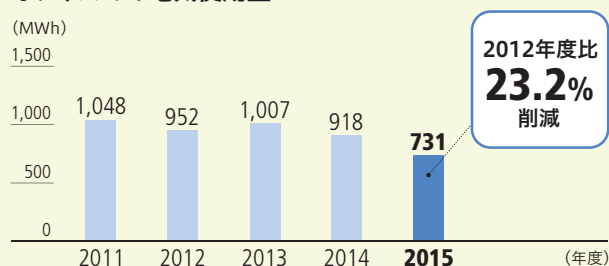
ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

#### オフィスにおける環境保全

空調温度の徹底管理や、こまめな消灯、エレベーター使用の削減など、社員への周知を徹底することで、電気使用量の削減に取り組んでいます。2015年度は、本社ビルで空調設備、厨房機器を省エネ型へ更新しました。その結果、2012年度比23.2%削減することができました。

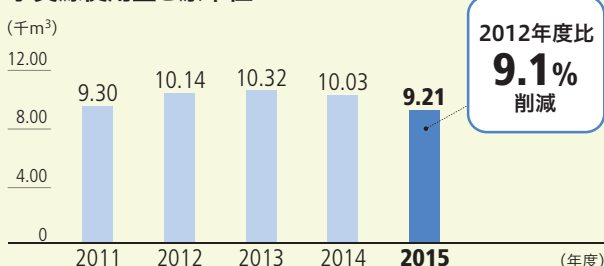
今後も計画的な空調設備の更新、省エネ対策を推進します。

オフィスでの電気使用量



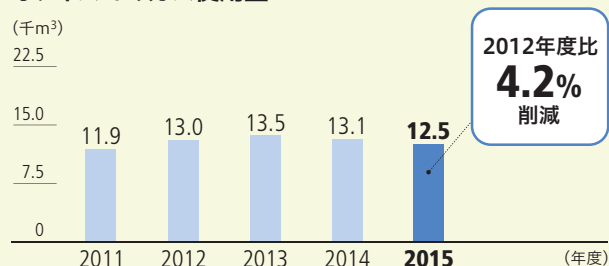
2012年度比  
**23.2%**  
削減

水資源使用量と原単位



2012年度比  
**9.1%**  
削減

オフィスでのガス使用量



2012年度比  
**4.2%**  
削減

水道使用について各個人に節水をPRし、水漏れ箇所についても迅速に修理対応することで、2012年度比9.1%削減することができました。

ガス使用量は、本社ビルの厨房機器を更新しガス使用量削減を図り、2012年度比4.2%削減することができました。

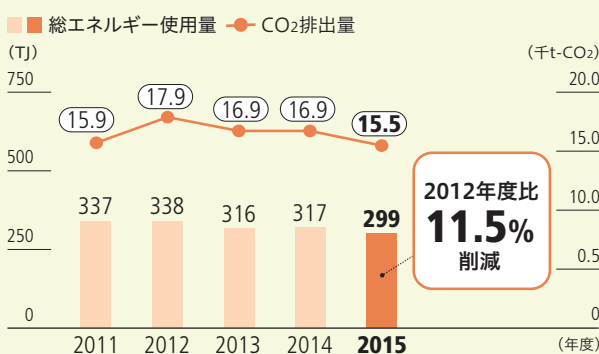
# ショッピングセンター部門での環境保全活動

## ショッピングセンター運営での取り組み

ニッケは国内2カ所(千葉県・兵庫県)で大規模なショッピングセンターを運営しています。環境負荷を低減するため設備を改善するとともに、地域の皆様を対象に、エコの大切さをお伝えする活動に協力しています。

### ショッピングセンターでの環境保全

#### ショッピングセンターでの総エネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量

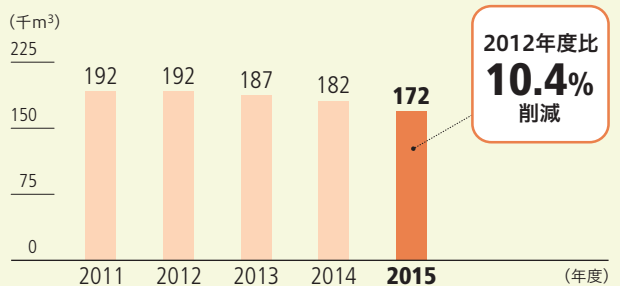


ショッピングセンターで使用している誘導灯、非常灯をLED照明へ変更。空調設備熱源機の更新、空調送風機の運転周波数低減や外気冷房を実施することでエネルギー使用量の削減に取り組みました。



熱源機の更新

#### ショッピングセンターでの用水量



施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

### 地域への情報発信・啓発活動

#### ニッケコルトンプラザ

地域の皆様を対象とする、緑化や省エネなどの啓発活動に協力しています。

ニッケコルトンプラザがある千葉縣市川市では、「クールアースいちかわ2015」と題して、節電意識のさらなる定着を目指し、6月22日(夏至)と7月7日(七夕)の午後8:00~午後10:00にライトダウン(節電)に取り組むことになりました(主催:市川市地球温暖化対策推進協議会)。ニッケコルトンプラザでは、市川市からの協力のお願いがあり、外部看板のライトダウンを実施しました。



「クールアースいちかわ2015」

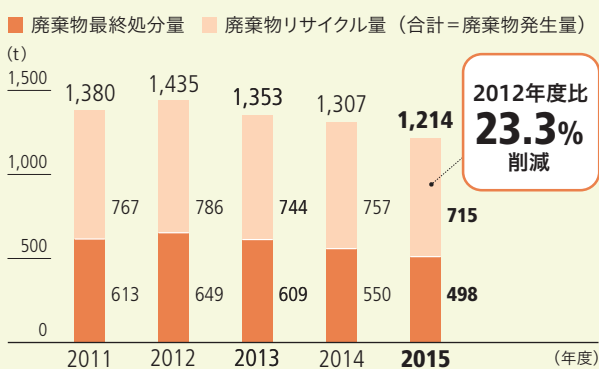
#### ニッケパークタウン

加古川市内の幼稚園や小学生が描いた環境ポスター展や、防火ポスター展を開催するにあたり、3階のギャラリーを無料で開放しています。毎回多くの地域の皆様に鑑賞していただいています。



ギャラリーでのポスター展

#### ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



テナントから発生する段ボール、雑誌、紙の分別徹底によりリサイクル量を増やし、廃棄物最終処分量の減量に取り組んでいます。

剪定くずによるバイオネット(木の葉や枝を積み重ねてつくる昆虫や小動物のすみか)づくりや落ち葉のコンポスト化(堆肥化)にも取り組み、手造りの庭で再利用しています。

# 社会貢献活動

## 社会・地域への貢献活動

ニッケグループでは国内各所に製造拠点、事業所、ショッピングセンターなどを展開しており、地域行事への参加・協賛や工場見学の実施など、積極的な地域貢献活動の推進を心がけています。また、「グループ企業と地域社会の密接な関係」を強化するため、グループ事業場の多い兵庫県加古川市と愛知県一宮市に地域事務所を設置しています。

### 「ヒツジパレット2015京都」に特別協賛

2015年2月5日(木)～8日(日)に京都府京都文化博物館やハートピア京都ほか京都市内各所にて開催された、「第2回ヒツジパレット2015京都」(主催:羊パレット実行委員会)にニッケグループとして協賛しました。

本イベントは日本最大級の羊毛を主軸とした公募展で、国内外から300点を超えるクリエイター作品が展示されました。そのほか、織り・編み・紡ぎ・染め・フェルトなど8種類のワークショップ(レクチャー)や、「人間と羊毛の歴史」など7テーマの講演会、モンゴルの伝統的な敷物制作の実演、ヒツジに纏わる作家の作品や素材の販売会「ひつじマルシェ」も併催されました。

ニッケグループは、企業を紹介する常設展示を設けたほか、現役・OBを講師に「ニッケグループウール大学」を2月6日(金)限定で開講しました。また、(株)ツキネコ、ニッケ商事(株)、ニッケの3社合同で「ひつじマルシェ」

にブースを出展しました。

開催期間中は、デザイナー・紡績関係者・手芸愛好家などプロからアマチュアまで延べ8,800名のヒツジファンが全国から集いました。

今後も本社部門の広報活動のひとつとして、事業部横断的な取り組みを検討していきます。



「ニッケグループウール大学」を開講

### 第13回「工房からの風」を開催

2015年10月17日(土)～18日(日)の2日間、ニッケコルトンプラザ(千葉県市川市)で「工房からの風」を開催しました。本イベントは今回で13回目となる屋外工芸展です。会場にはワークショップや制作公開も含めて70名の若手工芸作家さんが集まり、陶磁や硝子、染織、木製品など、暮らしを彩る工芸品が並びました。

本イベントは、新人作家さんの登竜門として認知されてきたことで、バイヤー、ギャラリー経営者、編集者などが全国から集う、独自の名物企画へと育ってきました。そこで、今回、新しい試みとして、「魅力的な工芸作家輩出への関わり方」や「作品ができるまでの背景」についてのトークショーを開催しました。立ち止まって共感するお客様の姿が見受けられ、多くのお客様に楽しんでいただけました。このイベントを通じて、地域のお客様と新人作家さんとの交流が生まれること、作家さんが全国区で活躍の場を広げることは、主催者の喜びでもあります。来場者アンケートに一番多く書かれた「続けてもらいたい」という言葉を心の糧にし、今後も文化的なイベントを開催していきます。



70名の若手工芸作家が出展



トークショーを開催

## 社会貢献活動

### 「第9回ニッケピュアハートイラスト大賞」を開催

ニッケグループでは、2015年8月1日(土)～10月23日(月・祝)まで、「ニッケピュアハートイラスト大賞」を実施しました。9回目となる今回は、「スタンプインクを使って、絵はがきを作ろう!」をテーマに、年齢の枠を設けずに自由な発想で描いたイラストを募集しました。例年、「ヒツジを描こう!」や「う～んのお友達を描こう!」などタイトルを指定していましたが、今回は応募者の方がタイトルを付け、そのタイトルに合うイラストを描く形式としました。

応募総数641通の中から厳正なる審査を行い、大賞1名・優秀賞5名・ニッケ賞24名の合計30名の受賞者を決定しました。

12月5日(土)には大賞・優秀賞の受賞者6名を対象に、綿業会館(大阪市中央区)にて表彰式を実施しました。受賞者とご家族8名、ニッケ関係者6名が参加し、会食や国の重要文化財に指定されている綿業会館の見学を含めた表彰式を楽しみました。

このピュアハート企画は、イラスト大賞としては第9回ですが、過去の英文エッセーコンテストを含めると通算で27年という長い歴史を持つ、次世代を見据えた文化支援事業です。作者の純粋な目線を讃え、絵を描く喜びや楽しさを提供する活動の一環として、今後も継続して取り組んでいきます。たくさんのご応募ありがとうございました。



綿業会館にて表彰式を実施



大賞・優秀賞の受賞者(左から木村岳文様、藤城佑梨様、馬場美優様、橋本じゅん子様、西村香織様)

### 第27回「加古川マラソン大会」に特別協賛

兵庫県加古川市にて2015年12月23日(水・祝)に開催された「第27回加古川マラソン大会」に特別協賛しました。

全国ランニング大会100撰に9年連続で認定されている加古川マラソン大会では、「県立加古川河川敷マラソンコース(加古川みなもロード)」を走ります。全体的に平坦で走りやすいため、好タイムが出やすく、自己ベストを狙うランナーも多く、年末を締め括るにはふさわしい大会として親しまれています。

今大会はあいにく終盤に雨に見舞われましたが、5,199名のランナーが参加し、招待選手のリオデジャネイロオリンピック2016女子マラソン日本代表内定の伊藤舞選手(大塚製薬陸上競技部所属)とゲストランナーの大平サブロー氏、和泉修氏(ともによしもとクリエイティブ・エージェンシー所属)もともに10kmの部に参加され、師走の加古川をさっそうと駆け抜けました。

ニッケグループは、ニッケの発祥の地である加古川市の市民の健康増進と、スポーツ振興に寄与することが社会貢献につながれば、という考えのもとで、1990年開催の第1回大会から特別協賛企業として本大会運営に協力しており、今後も継続して協賛を行ってまいります。



第27回「加古川マラソン大会」



# ニッケグループ各社の取り組み ニッケ(日本毛織株式会社)

## 本社

CO<sub>2</sub>排出量低減を意識した節電に取り組みました。

通年の取り組みに加え、①「節電に配慮した冬期防寒対策」②「フロア内照明間引き」③「最大デマンド値の再設定」を実施しました。前年度比で、冬期(12～2月)で5.6%(9,933kWh、CO<sub>2</sub>換算5.2トン)、夏期(7～9月)で11.1%(17,958kWh、CO<sub>2</sub>換算9.4トン)の削減となりました。



デマンド制御装置  
(中央監視盤)

## 神戸本店

夏の節電対策として、照明を間引くほか、空調温度の28℃徹底、自動販売機の台数削減・省エネ機への切り替えなど、最大電力を抑制しました。

また、社会貢献として、エコキャップやプルタブの回収を継続しています。



エコキャップ、プルタブの回収

## 東京支社

事務室の照明見直しに着手しました。従来、企画部員と営業部員が生地の色を見るときに求められる、晴天日の北窓光線を想定した高演色性特殊蛍光灯D65光源を使用していました。そこで、メーカーに依頼してD65光源に近いLEDランプを12本制作してもらい、蛍光灯6基分を置き換えました。これまで使用していた光源と比較し、価格は1/3となり、消費電力も大幅に減少しました。2015年度の電力使用量は2014年度比で95.6%となり、4年連続して前年度比減少を達成しました。



D65光源に近いLED照明

## 北海道営業所

省エネ対策として、空調設定温度の管理や、就業時間外は冷暖房を入れないなどの節電を継続実施しています。蛍光灯の間引きや、休憩時間や業務時間外には照明を最低限にすることを徹底しました。

また、コピー用紙の裏面利用やゴミの分別回収など、資源保全にも取り組んでいます。

## 仙台営業所

2015年度も継続して節電を中心に環境活動を推進しました。夏季は窓を開放してエアコンの使用を控え、電灯の間引き、昼休みの消灯を徹底しました。ペーパーレスの推進やコピー用紙の裏面使用、ゴミの分別なども継続して取り組んでいます。



窓を開放

## 名古屋営業所

2015年度も空調設定温度の管理徹底、不要時消灯などの節電対策を継続的に実施しました。またゴミの分別とリサイクル、保管書類の電子化によるペーパーレス推進、コピー用紙の再生紙利用や裏面利用など、資源保全の取り組みも継続しています。

## 広島営業所

休憩時間中の消灯、蛍光灯の間引き、空調設定温度の管理を徹底して省エネ対策を継続しています。ゴミは分別ボックスによる回収、コピー用紙の再生紙利用や無駄なコピーの削減を継続的に徹底しています。

## 九州営業所

蛍光灯の間引き、休憩時間中の消灯、空調設定温度の管理などにより省エネに取り組んでいます。

また、保管書類の電子化によるペーパーレス推進、コピー用紙の裏面利用、ゴミの分別を徹底し、環境保全に努めています。

## 印南工場

【ユニフォーム素材の製造】

ISO14001認証取得/2000年11月(登録番号 JMAQA-E156)

工場の省エネ対策として、織絨課コンプレッサーをインバータ化、既設変圧器4台をアモルフアス変圧器に更新したほか、エアコン1台を高効率タイプに更新した結果、電力使用量を約140,000kWh/年(1.3%)削減できる見込みです。



アモルフアス変圧器に更新

## 一宮事業所

【メンズ・レディスファッション素材を中心に製造】

ISO14001認証取得/2007年12月(登録番号 JMAQA-E724)

水質汚濁防止法の改正に伴い、有害物質の地下浸透を防止するために排水路・貯水槽の改修を実施しました。排水路は工事可能な箇所ステンレス板を全面に張り付け、貯水槽はコンクリート打設後に防水加工を施しました。



排水路・貯水槽の改修

## 岐阜工場

【毛糸の製造】

ISO14001認証取得/2001年10月(登録番号 JMAQA-E234)

精紡機の糸切れ検出用照明を水銀灯ランプからLED照明に切り替えました。電力使用量を年間222,600kWh(CO<sub>2</sub>換算で114トン)削減できました。ランプの寿命が長く、水銀灯に比べ発熱の少ないLED照明は、交換経費の削減、職場環境の改善に寄与しています。また、常時点灯していた精紡機の機台間の照明も、列単位でスイッチを取り付け照明電力の削減に努めています。



照明電力削減と糸切れ検出用照明をLED照明に変更

## ニッケグループ各社の取り組み

ニッケ(日本毛織株式会社)

グループ会社

### ニッケコルトンプラザ

【ショッピングセンター】

センターモール用空調設備の熱源機(吸収式冷温水機)が設置後26年経過し、老朽化していたため、1台更新しました。更新したことにより、電気使用量17.9%、ガス使用量14.5%の削減を見込んでいます。

また、別の熱源機(吸収式冷温水機)1台をオーバーホールして省エネを図りました。



熱源機の更新

### ニッケパークタウン

【ショッピングセンター】

空調送風機の運転周波数低減や、春・秋の中間期には涼しい外気を取り入れて館内冷房に利用することにより、冷凍機の運転時間を短縮しています。

また、誘導灯や階段室非常灯をLED器具に順次更新し、省エネを図っています。



館内のLED誘導灯

### 株式会社ナカヒロ

【衣料繊維製品および繊維資材製品の販売】

ISO14001認証取得/2002年6月(登録番号 E465)

ISO14001の環境方針として①省エネルギー、廃棄物削減、②省資源、③環境配慮商品の販売を掲げ、それぞれの目標として①ニッケ大阪ビルの「地球環境委員会」への参画による電力・ゴミの削減、②PPC用紙使用量の削減、③防災グッズの販売に取り組み、エネルギー、ゴミ、PPC用紙の削減について成果を残すことができました。

また、環境配慮商品の販売の一環として、自社名古屋支店と各営業所・山形工場に防災グッズを配備しました。



防災グッズ

### アカツキ商事株式会社

【衣料繊維製品の販売】

ISO14001認証取得/2001年9月(登録番号 JSAE419)

ニッケグループで取得した「エコシップ」(P.19参照)を利用し、茨城県警様、栃木県警様の使用済みユニフォームを回収し、リサイクルしました。

また、昨年に引き続き省エネ、エコ繊維の販売などに取り組みました。特にペーパーレス化は、全社で社員の意識向上を図り、紙の使用量削減に取り組んでいます。

### 佐藤産業株式会社

【衣料繊維製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JE0129E)

ニッケ・アカツキ商事(株)・(株)ナカヒロとともに「エコシップ」の認定を受けました。廃棄ユニフォームの再生循環を通じて、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

### 株式会社ニッケファブリック

【梳毛糸の製造・販売】

南海ニッケヤーン(株)は2015年4月1日に(株)ニッケファブリックに社名変更しました。

継続した取り組みとして、社内用コピー用紙の裏面利用、昼食時間の事務所消灯に加え、ゴミの分別回収、夏期28℃・冬期20℃の空調温度管理を徹底し、各人の環境への意識向上を図っています。

一宮事業所と足並みを揃え省エネ・省資源活動に取り組んでいます。

### 大成毛織株式会社

【織物の製造】

従来FAXを使用していた書類をメールに変更するなどによって紙の使用削減に努めました。

また、コピー用紙の再生紙や裏面の利用に継続的に取り組んでいます。

### ニッケテキスタイル株式会社

【織物の製造・販売】

全社員で快適環境づくりを目指して、毎週第一営業日の朝、勤務開始時間前に事務所と創作工房敷地内の清掃を継続して行っています。

また、ゴミの排出削減と資源の無駄をなくす目的で、残糸の有効活用に取り組み、環境対応に努めました。

年間を通じて、不要時の消灯徹底と空調温度管理により、省エネ活動に取り組んでいます。

### 尾州ウール株式会社

【毛糸の製造】

尾州ウール(株)では省エネ電力活動を進めるため、主力設備であるダブルツイスターにデジタル積算電力計を設置し、消費電力分析を行いました。

その結果、最も効率の良い運転方法を2015年5月より実施しており、9月時点での電力使用量原単位は12.5%改善しました。

### 金屋ニット株式会社

【ニット製品の製造・販売】

2014年3月に省エネ型タイプのエアコンに更新し、4月に事務所と工場内の主な照明にLEDを導入して消費電力削減に取り組ましました。その結果、電気使用量は前年度比、エアコンで8%、照明で34%削減することができました。

また、不用時消灯の徹底と空調温度管理、さらには裁断くずの再生利用なども継続して取り組んでいます。



LED照明の導入

### 株式会社キューテック

【織物製品の縫製加工】

工場内で発生したゴミは、今まで再資源化可能なものはリサイクル業者に委託をして有料で処分していました。しかし、2015年5月より無料で回収してもらえる業者を見つけ、ゴミの分別回収を最大限に細かく分け、産業廃棄物処分費用を年間で11万円削減する見込みです。

## ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

### 艶金化学繊維株式会社

【染色整理加工】

テキスタイル製造での環境負荷が染色整理工程にあるとの自覚のもとで、化学薬品、廃棄物、水消費と排水、エネルギー、温室効果ガス排出、職場環境のすべてにおいて厳格な管理レベルを目指しています。継続的なCO<sub>2</sub>排出量削減活動が認められ、環境省の事例集に掲載されました。



環境省の事例集に掲載

### 株式会社ニッケ機械製作所

【機械設計・製造・販売】

ISO14001認証取得/2004年11月(登録番号 3030786)

2014年6月頃から当社およびニッケグループを中心に、エアコンにファンを取り付けた「ハイブリッドファン」を設置しています。「室内の温度ムラの解消」や「空調が効くまでの時間の短縮」を可能にし、エアコンの直撃風を和らげ、オフィス環境の改善に効果を発揮しています。

また、「ハイブリッドファン」は、電気などの追加動力源が不要で、エアコン動力のみで作動するため、エアコンの切り忘れ防止にも効果があります。



ハイブリッドファンの設置

### 青島日毛織物有限公司(QNF)

【織物の製造加工】

蒸気の配管径を見直し、サイズを縮小しました。これにより生産量が一定規模以下に減少した際の使用蒸気量を削減できるようになります。季節により生産量の変動が生じる場合のエネルギー節約に効果があり、蒸気使用に伴うコストの削減にもつながります。

また、昨年に引き続き、節電啓蒙ポスターなどによる社員の環境意識の改善に努めています。

### アンビック株式会社

【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JQA-EM1898)

工場排水の削減と熱回収を目的として排水リサイクル設備を導入しました。フェルト製造工程から排出される洗絨排水、染色排水を回収し、UF膜・RO膜でろ過することで原水よりも不純物が少ない水を生成し、洗絨、染色工程で再利用しています。

2015年11月より稼働しており、工場排水量を45%削減する見込みです。



排水リサイクル設備の導入

### 江陰日毛紡績有限公司(JNS)

【毛糸の製造・販売】

2015年8月、排水総量規制への対応と排水処理の効率化を図るため、

比較的清い生活排水と染色排水を分け、染色排水のみ場内の排水処理設備で処理するように排水路を改修しました。染色排水のみ重点的に排水処理することで、処理水量は約2割減少、処理薬剤も大幅に削減することができました。



生活排水用流量計室

### 日本フェルト工業株式会社

【繊維資材製品の加工】

昇降機出入口は吹き抜け状態であったため、室内空調を稼働させても外気の流入により空調効率が非常に悪い状況でした。自動シャッターを取り付けたことで、空調機の稼働を最低限にできるとともに、遮蔽シャッターの閉め忘れ防止を確実にできるようになりました。



昇降機出入口へのシャッター取り付けによる室内空調の効率化

### 日毛(上海)管理有限公司(SNM)

【中国グループ会社向けのコンサルタント業務、資金融資、新規事業開発支援】

2015年度は、2つのフロアに分かれていた事務所を1カ所に集約することで、事務所賃料の低減、電気代などエネルギーの節減を実現しました。

また、会議資料のペーパーレス化、コピー用紙の裏面利用、使用可能な備品の再利用などによる資源保護、PM2.5やインフルエンザの対策として空気清浄機の設置も引き続き行っています。

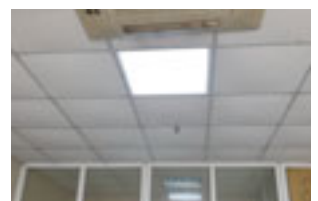


事務所を1カ所に集約

### 江陰安碧克特種紡織品有限公司(JAF)

【繊維資材製品の製造加工】

2015度は食堂の照明器具をLEDタイプに取り替えました。来年度以降も随時、LEDタイプへ切り替えていく予定です。



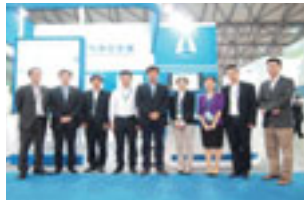
食堂の照明器具をLED化

## ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

### 安碧克(上海)貿易有限公司 【繊維資材製品の販売】

会社設立時からコピー用紙の裏面利用、不要照明の消灯に継続して取り組んでいます。

石炭火力発電所向けPM2.5対応PPSフィルターバッグ開発品を、中国環境博覧会に出展し、ばいじん濃度削減を目標に中国国内で初の納入を実現しました。今後中国国内の環境保全のため、拡販していきます。



中国環境博覧会に出展

### ゴーセン・タイランド 【自動車用繊維資材の販売】

BANGKOK事務所をAMATA工場に統合、一括管理することにより、人件費・管理費・光熱費・交通費を削減しました。

また、客先納品時には、段ボールパッキンを使用せずに通箱を全面採用しています。紙管などの副資材も回収・再利用し、廃棄物減量を心がけています。



納品形態に通箱を採用

### 安碧克(香港)有限公司(HAM) 【繊維資材製品の販売】

昨年の難燃SNシリーズに加え、2015年度はヒメロンソフトタイプの販売を開始しました。ヒメロンシリーズは、風合い、厚みのバリエーションも増え、中国および東南アジアへの販売をますます広げています。

また不織布単体だけではなく、自動車業界の環境規制にも適応した、低VOC粘着加工品の拡販にも注力しています。



ソフトヒメロンシリーズを追加ラインナップ

### ニッケ不動産株式会社 【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

2012年度より継続して事務所内の照明をプルスイッチにて不要時・不要箇所の消灯に努めました。FAX保存機能の活用、資料のデータ保管などでコピー用紙削減に継続して努めました。加古川営業所では仮移転先にLED照明を採用し節電に努めました。



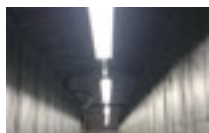
LED照明の導入

### 株式会社ゴーセン 【テニス・バドミントンガット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001認証取得/2005年4月(登録番号 JQA-EM4701)

作業場照明の一部をLED照明に変更しました。使用頻度の高い24時間操業の作業場を選定してLED化を進め、1,450kWh/月の電力量削減となりました。

また、環境負荷リスクの高い水銀灯を撤去し、適切に処分しました。



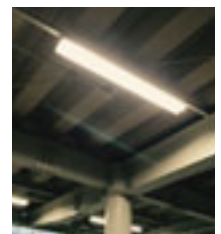
LED照明の導入

### 株式会社ニッケレジャーサービス 【ゴルフ施設運営・管理】

2015年度は、京口センター・一宮センター・碓目寺センターでの打席のLED化を実施しました。省電力化を推進するとともに、蛍光灯に集まる虫の予防策にもなり、練習環境の向上につながりました。

また、一宮センター・碓目寺センターにおいては、ベンダー業者の協力のもと、低電力タイプの自動販売機を導入しました。

2014年度から導入した「使用電力監視システム」の成果も見られはじめ、全事業所での削減意識の向上に取り組みました。



打席にLED照明を導入

### ホクレン株式会社 【繊維資材の染色加工】

節電対策として、すべての職場の蛍光灯をLEDに変更しました。空調機も節電対応できるものに変更しています。

また、工場内外の清掃をするほか、年2回の工業団地の一斉清掃に参加しています。



水銀灯をLEDに変更

### 株式会社ニッケインドアテニス 【テニス施設運営・管理】

2014年10月に「使用電力監視システム」の新型機を導入した東海4校では、30分ごとの電気使用量を設定、監視することにより、年間の電力使用量を4校平均で約10%削減することに成功しました。2015年8月には同機を関東3校(八千代、佐倉、小豆沢)にも導入しました。よって、2016年度はさらなる削減を見込んでいます。

また、岐阜校・一宮校のテニスコート照明をメタルハライド(水銀電球)からLED照明に変更する予定です。省エネとともに『地球にやさしい企業』をPRしていきます。



使用電力監視システム新型機を導入

### 上海高織制紐有限公司 【繊維資材製品の製造】

ISO14001認証取得/2004年3月(登録番号 01 104 031654)

工場内では休憩中の消灯・照明本数の見直しを行い、事務所ではコピー用紙の裏面利用などを実施しています。

引き続き、中国国内の環境保全に貢献していきます。



休憩中の消灯の徹底

## ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

### 株式会社ニッケ・ケアサービス

【介護事業】

ニッケあすも一宮(特定介護施設・デイサービス・居宅介護支援事業所・本社事務所)では、電力デマンド管理の徹底と夏場の窓の日よけ効果により、年間約30万円(実績値)の電力消費量を抑制しました。



電力デマンド管理の徹底

### 日本パムコ株式会社

【介護事業】

2015年3月よりグループ会社となりました。

ゴミの分別収集、節電のための電灯の間引き、不要時間における照明の消灯、28°C/20°Cの空調温度設定などを行っています。

また、不要になった福祉用具のリサイクルなどを行っておりますが、今後さらに環境配慮型の企業へ進化していく予定です。

### 株式会社ジーシーシー

【携帯電話販売】

コピー用紙削減のため、FAXをメールで送信するようにしました。

また、定例会議での資料はすべてタブレットを使用し、ペーパーレス化しました。店舗の店内照明・看板のLED化についても、順次進めています。今後は、お客様からいただく申込書へのサインも電子化する予定です。

### ニッケアウデオSAD株式会社

【菓子小売・キッズランド・TSUTAYA・飲食カラオケ施設運営・管理】

サーティワンアイスクリームおよび飲食店舗では新店舗の照明を一部LED化、またTSUTAYAの既存店舗においても照明のLED化を一部行いました。



LED化したサーティワンアイスクリームメラード大和田店

### ニッケ商事株式会社

【毛布・寝装用品の製造・販売、手編糸・スーツの販売】

コピー用紙の再利用、不要なプリントの抑制、ゴミの分別および削減、エレベーターの使用制限やこまめな消灯など社員一人ひとりが意識を持って身近な省資源・省エネルギー活動に取り組みました。

また、企業として引き続き衣料品のリサイクル活動に取り組んでいます。

### 株式会社友栄

【100円ショップ向け卸売】

2014年度に引き続き事務所内の室温温度の徹底、コピー用紙の裏面利用、トナーカートリッジのリサイクル品の使用を継続して行いました。

また、2014年度において使用頻度の多かった蛍光灯をLED化しました。不在場所の消灯の徹底、社用車の1台削減も実施しました。

### 株式会社ナイスデイ

【寝装用品の卸売・直販】

コピー用紙削減のため、FAXをネットワークストレージのフォルダにPDF変換し保存しています。可能な限り送信もメールで実施しています。

また、コピー用紙の裏面利用も実施しています。

### 双洋貿易株式会社

【馬具・乗馬用品の製造・販売】

2014年度より引き続き夏期のスーパークールビズを実施するほか、ゴミ分別の徹底、再生トナーの使用やコピー用紙の裏面利用、不要照明の消灯を実施しています。

また、複合機の更新を計画、消費電力の削減に努めています。

### 株式会社ニッケ物流

【倉庫管理・運送】

「グリーン経営認証」を取得してから3年が経過し、環境目標を定期的に見直すことにより環境保全活動の継続的な改善に努めています。

また、グリーンエコプロジェクトセミナーへ参加し、「ゆっくり発進・ゆっくり停止」をモットーに燃費改善を3年間で目標を上まわる7%改善を達成し、さらに継続的な改善を目指しています。



環境にやさしい活動の実施

### 株式会社ツキネコ

【スタンプ台等の企画・開発・製造・販売】

吉川第二工場2階の北側製品倉庫は空調機が設置されておらず、夏場の天井付近の温度は60°Cに達していましたが、製品の品質維持と従業員のピッキング作業時の作業環境改善のため空調機を設置しました。

また、北側製品倉庫の屋根は折板屋根がそのままの状態を外気温の影響を直接受けてしまうため、屋上自然力応用遮熱シートを取り付けました。シートと折板屋根の間に設けられた空気層によって、太陽からの熱が屋根に伝わるのを抑え、夏季は遮熱効果が発揮されます。冬季は、屋根面からの放射冷却が抑えられることで暖められた内部の熱が逃げにくくなり建物の保温効果を発揮し、屋根裏などの結露緩和効果が得られます。



屋上自然力応用遮熱シートの導入

# 環境報告ガイドライン対照表

## 環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)との対照表

項目	環境データ集 2016 該当ページ	項目	環境データ集 2016 該当ページ
<b>1. 環境報告の基本的事項</b>		<b>3. 事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況</b>	
<b>1. 報告にあたっての基本的要件</b>		<b>1. 資源・エネルギーの投入状況</b>	
(1) 報告対象組織の範囲・対象期間	P.2	(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	P.11、P.12
(2) 対象範囲の補足率と対象期間の差異	P.2	(2) 総物質投入量及びその低減対策	P.11、P.13
(3) 報告方針	P.2	(3) 水資源投入量及びその低減対策	P.11、P.13
(4) 公表媒体の方針等	P.2	<b>2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)</b>	P.11、P.13
<b>2. 経営責任者の緒言</b>	P.3	<b>3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況</b>	
<b>3. 環境報告の概要</b>		(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	P.11
(1) 環境配慮経営等の概要	P.1	(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P.11、P.12
(2) KPIの時系列一覧	P.11	(3) 総排水量及びその低減対策	P.11、P.15
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	P.10	(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	P.11、P.15
<b>4. マテリアルバランス</b>	P.11	(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P.11、P.14
<b>2. 環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況</b>		(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P.11、P.13
<b>1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等</b>		(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	P.8、P.14
(1) 環境配慮の方針	P.7	<b>4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況</b>	P.9
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	P.7	<b>4. 環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況</b>	
<b>2. 組織体制及びガバナンスの状況</b>		<b>1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況</b>	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	P.7	(1) 事業者における経済的側面の状況	P.8
(2) 環境リスクマネジメント体制	P.8	(2) 社会における経済的側面の状況	—
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	P.9	<b>2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況</b>	
<b>3. ステークホルダーへの対応の状況</b>		(組織統治等)	P.4
(1) ステークホルダーへの対応	P.9	(人権)	—
(2) 環境に関する社会貢献活動等	P.9、P.24-28	(労働慣行)	—
<b>4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況</b>		(消費者保護・製品安全)	—
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—	(地域・社会)	P.22-23
(2) グリーン購入・調達	P.20	(その他)	—
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	P.16-18	<b>5. その他の記載事項等</b>	
(4) 環境関連の新技术・研究開発	P.16-18	<b>1. 後発事象等</b>	
(5) 環境に配慮した輸送	P.12	(1) 後発事象	—
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	P.9	(2) 臨時的事象	—
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	P.18-19	<b>2. 環境情報の第三者審査等</b>	—

### 表紙イラスト

#### 第9回「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」(2015年)

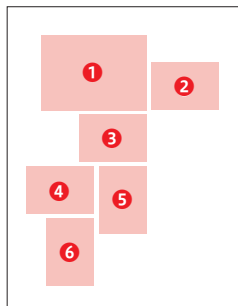
文化支援事業として「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」を実施しています。「スタンプインクを使って、絵はがきを作ろう!」をテーマに、素晴らしい作品が多数寄せられました。

#### 大賞

- ①「まだ見ぬ世界へ。」馬場 美優さん(中学生以上・奈良県)

#### 優秀賞

- ②「カエル」神原 久美さん(中学生以上・兵庫県)  
 ③「あたたかい気持ちの贈り物」橋本 じゅん子さん(中学生以上・岐阜県)  
 ④「アメリカザリガニ」藤城 佑梨さん(小学生・千葉県)  
 ⑤「秋の並木道」西村 香織さん(中学生以上・愛知県)  
 ⑥「生活」木村 岳文さん(中学生以上・千葉県)



〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号  
 Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>

# ニッケグループ「環境データ集2016」アンケートシート

## 皆様のご意見、ご感想をお聞かせください

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室 宛 **FAX. 079-431-2070**

「環境データ集2016」をお読みいただきありがとうございました。ニッケグループでは、環境保全に積極的に取り組むとともに、皆様方とのコミュニケーションをより一層深めながら、環境報告を継続的に改善し、充実させていきたいと考えております。お手数ですが、アンケートにご記入の上、上記の宛先までFAXでご送付くださいますようお願いいたします。

### Q1▶ 本データ集をお読みいただき、どのように感じになりましたか？

- |               |                                   |                                 |                             |                                 |                                   |
|---------------|-----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1) わかりやすさについて | <input type="checkbox"/> 大変わかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい | <input type="checkbox"/> 大変わかりにくい |
| 2) 内容について     | <input type="checkbox"/> 大変充実している | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない  | <input type="checkbox"/> 大変物足りない  |
| 3) 情報量について    | <input type="checkbox"/> 多すぎる     | <input type="checkbox"/> 多い     | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 少ない    | <input type="checkbox"/> 少なすぎる    |
| 4) デザインについて   | <input type="checkbox"/> 大変良い     | <input type="checkbox"/> 良い     | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い     | <input type="checkbox"/> 大変悪い     |

### Q2▶ 特に興味を持たれた項目は何でしょうか？(複数回答可)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <input type="checkbox"/> ニッケグループの概要 (P.1)          | <input type="checkbox"/> 編集方針 (P.2)            | <input type="checkbox"/> トップメッセージ (P.3)           |
| <input type="checkbox"/> コーポレート・ガバナンス (P.4)        | <input type="checkbox"/> コンプライアンス・リスク管理 (P.4)  | <input type="checkbox"/> 特集①アンビック (P.5)           |
| <input type="checkbox"/> 特集②印南工場 (P.6)             | <input type="checkbox"/> 環境に関する基本姿勢 (P.7)      | <input type="checkbox"/> 環境マネジメント (P.7-9)         |
| <input type="checkbox"/> 環境保全中期計画 (P.10)           | <input type="checkbox"/> 環境負荷の全体像 (P.11)       | <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止の取り組み (P.12)      |
| <input type="checkbox"/> 省資源・リサイクルの取り組み (P.13)     | <input type="checkbox"/> 化学物質の削減と管理 (P.14)     | <input type="checkbox"/> 大気や水などの汚染防止 (P.15)       |
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した商品 (P.16-19)       | <input type="checkbox"/> グリーン購入の取り組み (P.20)    | <input type="checkbox"/> オフィスでの取り組み (P.20)        |
| <input type="checkbox"/> ショッピングセンター運営での取り組み (P.21) | <input type="checkbox"/> 社会・地域への貢献活動 (P.22-23) | <input type="checkbox"/> ニッケグループ各社の取り組み (P.24-28) |

### Q3▶ 本データ集でお知りになった環境保全活動に対して、どのように評価されましたか？

- 大変評価できる     評価できる     普通     評価できない     全く評価できない

### Q4▶ 本データ集で不足している点や改善すべき点がございましたらお聞かせください。

### Q5▶ 今後のニッケグループの取り組みについて、ご意見や期待される点をお聞かせください。

### Q6▶ 本データ集をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客様     お取引関係者     投資家・株主     政府・行政関係     研究・教育関係     環境NPO・NGO     報道関係  
 企業・団体の環境ご担当     学生     ニッケグループ従業員・家族     その他( )

ご協力ありがとうございました。差し支えない範囲で、以下にもご記入ください。

お名前(ふりがな)	性別 男 ・ 女	年齢 歳
ご住所(お勤め先またはご自宅) 〒	ご所属(お勤め先学校名など)	
ご連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレスなど)	所属部署・役職など	

#### ■情報の取り扱いについて

アンケート内容は、今後の当社グループの環境への取り組みや、次回のデータ集作成の参考とさせていただきます。ご記入いただいたアンケート内容および個人情報は適切に管理し、この目的以外の利用や第三者への提供はいたしません。また、個人を特定できる形で開示することもございません。